

研究課題	ソフトCLILで行う「国際総合」SDGsテーマ学習の実践
副題	～ICT活用で姉妹校とともに育むグローバルシチズンシップ～
キーワード	CLIL, 総合的な探究の時間, SDGs, 姉妹校, グローバル・シチズンシップ
学校/団体名	愛知県立刈谷北高等学校
所在地	〒448-0846 愛知県刈谷市寺横町1丁目67番地
ホームページ	http://kariyakita-h.aichi-c.ed.jp/

1. 研究の背景

本校は現在、普通科の中の国際理解コース（2・3年生）に加えて、本年度からはコースから科に替えて国際教養科1クラス（1年生）が新設されている。それに伴い、学校独自の国際理解に関する科目のカリキュラムをスタートさせたところである。国際理解に関する主な科目としては、1年次に「総合的な探究の時間」（「国際総合」）、2年次に「国際理解」、3年次に「地域研究」がある。そのうちの「国際総合」に関しては本年度から実際に始まった。昨年度からカリキュラム作成委員会で授業内容や授業方法を考えてきてはいたものの、初めて行う内容および方法の授業である。担当者の不安を少しでも軽減し、その実践を通して授業内容を修正および確立していくために、本実践研究に取り組むことにした。

※「国際総合」は、グローバル人財として地球規模の視野を持ち、他国の人も協力しながら、自分のキャリアを考えていく授業である。1単位35時間のうち、13時間ではキャリア教育を、残りの22時間ではSDGs関連のことを学ぶことによって、グローバル・シチズンシップを育む。内容はSDGs学習、発表時の使用言語は英語というSoft CLIL（ソフトな内容言語統合型学習）の授業である。地歴・公民から1人、英語科から1人のチームティーチングで行う。

2. 研究の目的

研究の目的としては、次の3つを掲げる。

- (1) 「国際総合」（国際教養科「総合的な探究の時間」）の授業及びカリキュラムを確立する
～SDGsテーマのSoft CLILで参加型の授業をつくる～
- (2) ICTを活用し姉妹校とのパートナーシップを深める
～スカイプを利用したリアルタイムでの交流授業をこの活動の集大成として行う～
- (3) SDGsテーマ学習を通してグローバル・シチズンシップを育む。
～地球規模の課題を自分事として仲間とともに考えることができるようにする～

3. 研究の経過

- (1) ティームティーチング（地歴公民+英語）で「国際総合」の授業を参加型で行った。
- (2) 姉妹校（韓国観光高校）とのSDGsテーマ学習交流授業を行った。
- (3) SDGsをテーマとした国際理解講座を実施した。

平常授業、姉妹校交流授業の他に、年3回の国際理解講座と1回の国際理解講演を行った。テーマは、「グローバル人財とは?」、「国際開発とジェンダー」などであった。

表 1 : 年間の実践内容

月	内容・方法
4月	「国際総合」: 国際教養科 1 年, 40 名, 参加型ワークショップ形式の授業を行う。
5月	<p style="text-align: right;">第 1 回国際理解講座</p> <p>・「英語を学ぶのは何のため？」 「グローバル人材とは？」</p>
6月	<p style="text-align: center;">姉妹校韓国観光高校とのSDGsテーマ学習交流</p> <p>・自己紹介シート交換</p> <p>・SDGs基礎学習</p>
7月	<p>・カルチャーボックスの交換</p> <p>姉妹校マクレラン校(豪)の本校訪問</p> <p>・交流授業</p>
8月	<p style="text-align: right;">第 2 回国際理解講座</p> <p>「国際開発とジェンダー」</p> <p>1 日異文化体験</p> <p>JICA中部訪問, 名古屋モスク訪問</p>
9月	<p>※韓国研修(希望者)にて姉妹校訪問</p>
10月	<p>・SDGsグループ研究①</p> <p>・SDGsグループ研究②</p> <p>・SDGsグループ研究③</p> <p>・SDGsグループ研究④</p> <p>・SDGsグループ研究⑤</p>
11月	<p style="text-align: right;">国際理解講演</p> <p>「What is the Best Thing for Them」</p> <p>※全校生徒対象</p> <p>・リハーサル</p> <p>・スカイプ成果発表交流授業</p>
12月	<p>・ふりかえり</p>
1月	<p>シンガポール・マレーシア研究</p>
2月	<p>・シンガポール入門クイズ</p> <p>・地理・歴史・経済研究</p> <p>・生活・文化研究</p>
3月	<p>・SDGsを踏まえた課題</p> <p>※2年次5月の修学旅行時にさらに調査。交流校にて発表。</p> <p>→※実際には、新型コロナウイルスの影響で休校となり、3月には授業はできなかった。来年度、修学旅行は秋へと延期になった。</p>

4. 代表的な実践

(1) グローバル・シチズンシップの基礎としての「英語」について考える授業

「国際総合」（国際教養科 1 年での「総合的な探究の時間」）で行った授業を紹介する。ひとつの TED Talk を通して、「なぜ英語を学ぶのか?」「目指すべきグローバル・シチズンとはどのような人のことなのか?」を生徒に考えてもらう授業である。

「**Why do you learn English in the Global Age? ~TED Talk を使った授業~**」(山本 2018)

使用教材：Walker, J. (2009) . “The world’s English mania”

・ https://www.ted.com/talks/jay_walker_on_the_world_s_english_mania

このプレゼンは米国の起業家 Jay Walker によるもので、世界での英語学習熱について述べている。そして、なぜ英語を学ぶのかについて彼の見解を述べている。

次の問いの答えを探りながら視聴する。

Questions:

1. How many people are trying to learn English around the world?
2. Jay Walker says that mathematics is the language of science and that music is the language of emotions. Then the language of what does he say English is?
3. Why are Chinese students so eager to learn English?
4. Why do you think so many people are trying to learn English around the world?

(Answers: 1. Two billion people are. 2. He says that English is the language of problem-solving. 3. Because they believe English will bring them opportunity for a better life.)

視聴の後、4 人グループで Q1~3 の答えを確認し、Q 4 の答えについては話し合わせ、いくつかのグループにその答えを発表させる。世界の人々が英語を学ぶ理由について考えさせることで、生徒の視野を広げる。そして、最後に “Why do we learn English?” というタイトルで、自分なりに主となる理由を考え、60 語以上の英語でエッセイを書く。一つだけ生徒が書いた例（原文のまま）を紹介する。

I think learning English makes our life better. If we can speak English, our world become much wider, and we can meet and communicate with people from all over the world. Our world is diverse, so we have to study English to live in peace. We need the language to talk with each other and to solve our common problems in this complicated world. (64 語)

<地球市民としての英語学習を>

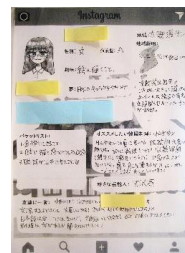
「どうして英語を勉強しなくてはいけないの?」この問いに対する決まった答えはないはずだが、受験科目にあるからという理由で、授業が試験対策にばかり使われるとしたらもったいない。せっかくグローバル社会となり、インターネットを使って個人個人が、意見を「英語で」世界の人々と交換することができるようになったのだから、一人でも多くの高校生に global issues について考えられる global citizen になってもらいたい。そんな思いを持ってこの授業を行っている。

(2). 姉妹校（韓国観光高校）とのSDGsテーマ学習交流授業

この実践が一番の主体となっている。韓国観光高校で日本語を学んでいる生徒 25 人と刈谷北高校国際教養科 1 年の 41 人がそれぞれ 5 つのグループを作り、日韓のグループをそれぞれペアにして交流した。また、グループ内のメンバー同士でもパートナーを決めて自己紹介シートやカルチャーボックスの中身（それぞれの国のお菓子）を交換した。グループ研究の内容は、SDGs に関するものとし、各グループが一番関心のあるゴールをまず選んで、そこから中身を深める調べ学習を進めていった。最後にそれぞれの調べた研究成果をスカイプを使った映像交換授業で発表し合うことを計画した。

表 2：姉妹校との SDGs テーマ学習交流授業の経過

月日	交流内容
5月29日	交流スタート 自己紹介カード 記入
6月5日	自己紹介カード回収（→6月11日EMSにて送付） 5つの交流グループ決め
(6月中旬)	韓国からの自己紹介シート届く
6月19日	スカイプ交流授業① ・グループごとに一人ずつ簡単な名前だけの自己紹介 ・グループが取り組むSDGsのゴールを発表 ・質疑応答
7月3日	カルチャーボックス について（説明）
10日	カルチャーボックスに入れるお菓子を回収（→7月11日、EMSにて送付）
(7月中旬)	韓国からのカルチャーボックス届く
9月4日	グループ研究① テーマ決め
18日	②発表資料作成
25日	③発表資料作成
10月2日	④発表資料完成
23日	⑤発表代表グループ決定
(11月中旬)	韓国観光高校の成果物「SDGs新聞」が届く（10月30日発送）
10月30日	グループ研究⑥交流授業発表リハーサル
11月6日	スカイプ映像交流授業 （※校内システム更新のため延期）
13日	スカイプ映像交流授業 （※韓国の大学入試のため延期）
20日	スカイプ映像交流授業② （※愛知県のネット関係が貧弱なため接続できず）
(11月下旬)	交流授業で発表する予定であったパワーポイントスライドを韓国へ送付



5月の連休後、定期考査の間を縫っての忙しい中ではあったが、夏休み前までの活動は順調に進んだ。つまり、グループ決めやパートナー決め、自己紹介シートやカルチャーボックスの交換、はスムーズにできた。そして6月のスカイプ映像交流授業も、こちらの音が少し小さいという

難点があったが、全体的にはうまくいった。

2 学期に入って、各グループが本格的に調べ学習に取り組んだ。日韓の各グループが選んでまとめたテーマは次のとおりである。

表 3：各グループの研究テーマ

	韓国観光高校 (SDGs 新聞)	刈谷北高校 (PPT スライド)
A	女性の人生とは何か (SDG5)	Gender Equality (SDG5)
B	気候変動を防ぐことはできなくても、遅らせることはできる (SDG13)	What is LGBT? (SDG5)
C	飢餓終息解決のために (SDG2)	Poverty in Japan (SDG1)
D	暮らしと水 (SDG6)	No More Hunger (SDG2)
E	プラスチックアイランド (SDG14)	Poverty (SDG1)



図 1 SDGs 新聞 (気候変動)



図 2 SDGs 新聞 (プラスチック)

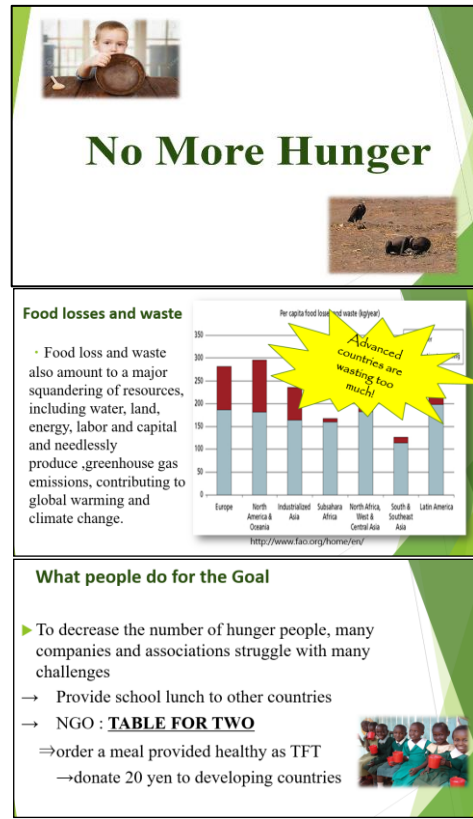


図 3 PPT スライド (飢餓)

お互いの研究成果を 11 月初旬のスカイプ映像交流授業で発表する予定であったが、今年度はさまざまな要因からスカイプを使えずリアルタイムでの映像交換授業をすることができなかった。誠に残念である。

(3). SDGs をテーマとした国際理解講座

国際教養科 1 年の「国際総合」には、外部講師による年 3 回の国際理解講座と 1 回の国際理

解講演が組み込まれている。これらのうち、第3回国際理解講座についてのみ取り上げておく。この講座は、刈谷市による「グローバル人財とファシリテーターによる ESD 出前講座」を利用して実施された。市内の外国人市民や世界で活躍した日本人市民のことを「グローバル人財」と位置づけ、学校教育での ESD や SDGs の学びに参加してもらい、アクティブ・ラーニングを通して地球市民を育むことを目的としている講座である。刈谷北高校は今後もキャリア及びグローバル・シチズン教育にこの講座を活用していく予定である。

5. 研究の成果

今回の研究の成果としては三つある。ひとつは、「国語総合」の年間のプログラムが完成したことである。授業の中身も姉妹校とともに学ぶ SDGs 学習で、調べたり話し合ったりする時には日本語でも英語でも可であるが、発表するときの言語は英語という Soft CLIL の形式で実施可能であると検証できた。二つ目は、2学期のスカイプ授業は失敗したが、1学期には実物のやり取りやスカイプ授業を通して姉妹校とのパートナーシップを深められたことである。三つ目は、SDGs 関連の国際理解講座や調べ学習などから、地球規模課題は自分事であると生徒が感じ始めていることだ。LGBT も貧困に喘ぐ子どもも、プラスチックごみも異常気象も、どれも遠い国の課題ではなく、自分に関係があり自分も共に解決していくべき問題であると感じ始めている。

6. 今後の課題・展望

今回の助成のおかげで SDGs 関連の書籍が充実して、調べ学習がはかどるようになった。しかし、ICT 関係の充実はまだまでである。壁掛けタイプのプロジェクター設置とネット環境の強化が欠かせないだろう。また、本研究では、グローバル・シチズンシップを育成できたのかどうかを検証する方法を用意することができなかった。具体的な質問用紙等を考えていきたい。

7. おわりに

本年度 1 年間の「国際総合」の授業を行うことができたのは、昨年度の国際理解カリキュラム委員会メンバーの皆さんが大変お忙しい中、週に 1 回集まり、何も無いところから具体性のある素案を創り上げてくださったのおかげです。深謝いたします。

8. 参考文献

- ・山本孝次 (2019) 「Soft CLIL で SDGs テーマ学習の実践 持続可能な社会の創り手を育てるために」『新英語教育』12月号(No.604), 32-33
- ・山本孝次 (2018) 「高校英語の創造的な扱い方 Why do you learn English in the Global Age? ~TED Talk を使った授業~」 『新英語教育』2月号(No. 582), 20-22